

NEWSあらかると

「町内ニュースをお知らせします」



50th Anniversary 第8回『これまでの公式訪問』

倶

知安からサンモリッツへの公式訪問は、今年で4回目になります。初の公式訪問は昭和63(1988)年のことです。宮下町長はじめ23名の訪問団がサンモリッツを訪れました。

サンモリッツに到着した訪問団は、役所前にて100名を超えるサンモリッツ市民から盛大な歓迎を受けました。アルプホルンによる日本国歌の演奏。花束贈呈。姉妹都市俱知安の人たちを、心より歓迎してくれました。サンモリッツに滞在中は、学校訪問、美術館見学、記念植樹を行うなど、さまざまな交流を行いました。サンモリッツが『トップ・オブ・ザ・ワールド』と誇る観光への姿勢を学ぶこともできました。全日程を終え、宮下町長は次のように話していました。

「俱知安は、町民の創意と工夫で「トップ・オブ・ザ・ジャパン」を目指し、町民誰もが真に誇れる町づくりと人づくりを進めたい。」

2回目の公式訪問は平成2(1990)年。宮下町長はじめ21名で訪問しました。この年はサンモリッツ冬



第2回公式訪問時の歓迎



第1回公式訪問

の観光125周年の年で、その記念式典に出席し、共に祝いました。翌年には俱知安町開基100年を祝うため、サンモリッツから訪問団が来町しました。お互いの町の偉業を祝福し合えたことは、姉妹都市関係をより一層深めることにつながりました。

平成12(2000)年には伊藤町長はじめ25名で訪問しました。サンモリッツの行政・財政・建設・教育などについて視察・研修を行いました。伊藤町長は研修を振り返り次のように話していました。

「サンモリッツは自治体を企業と考え戦略を持って行政運営を行っている。お互いが姉妹都市であることにメリットを見出し、そのメリットを生かしていけるような交流が必要だ。」

公式訪問は、親交を深めるとともに、姉妹都市サンモリッツから多くを学ぶことができる絶好のチャンスです。今年の5月にサンモリッツ訪問団が来町したときは、サンモリッツにとって学びの多い訪問だったと言っていました。俱知安とサンモリッツは深い友情で結ばれており、お互いに訪問し合い、学び合い、高め合うことで、50年という長い歴史を築き上げてきました。



第3回公式訪問

ピアノの音につつまれて… 小川原脩記念美術館 おはなしコンサート

小川原脩記念美術館に響き渡るピアノの音色。6月14日(土)に行われたおはなしコンサート「展覧会の絵」では、旧東陵中学校のピアノが使われました。



ピアノは東陵中の廃校と同時に使われなくなり、1年間東陵中で眠っていたものを美術館に移しました。手入れをし、よみがえったピアノの復帰舞台が、今回のコンサートでした。

「展覧会の絵」とは、ロシアの作曲家ムソルグスキーが、友人である画家ガルトマンの遺作展で見た10枚の絵を基に作曲したピアノ組曲です。

「絵をそのまま解説するような曲ではなく、10枚の絵から受けた印象と、友人ガルトマンとの思い出を合わせたような曲になっています。」

ピアノ演奏者の柴瑞穂さんはこのように言いました。「展覧会の絵」は10曲からなる組曲です。それを1,2曲ずつ区切って、柴さんによる解説を交えながら進められました。

柴さんの解説は、曲から受ける印象をより具体的にしてくれました。柴美術館長も、「続けて聴けば30分ほどの曲で、聴いている方も少し疲れ

てしまいます。途中で解説を交えることで小休止にもなり、一曲一曲をしっかり感じてもらえたと思います」と話していました。コンサートはとても和やかで、時に柴さんの解説で笑い声が聞こえる楽しい雰囲気の中進みました。

コンサートには約60名ほどが集まりました。「展覧会の絵」という美術館にぴったりの曲を奏でたピアノの音色と、そこから思い浮かぶ情景を楽しむ。そんな土曜の午後のひと時を、集まった人たち全員が感じていたのではないのでしょうか。



演奏者 柴瑞穂さん
札幌市出身。武蔵野音楽大学卒業。平成9年から1年、パリ国立音楽院で音楽を学ぶ。平成5年から毎年、道内各地で「ソロ・リサイタル」「柴瑞穂おはなしコンサート」をそれぞれ開催する。



季節外れの雪上レース！！

第6回全道サマークロスカントリースキー in 倶知安大会

倶知安町では、本来は冬のスポーツであるクロスカントリースキーを滑る選手の姿を、夏でも見るができます。

毎年、倶知安駐屯地創立記念行事に合わせて開催される全道サマークロスカントリースキー in 倶知安大会が、7月6日（日）に開催されました。冬からずっと保管していた天然雪を使い、全長500mのコースを作りました。

参加選手は総勢77名。幼児の部、小学生の部（学年ごと）、中学生の部、高校生の部、一般の部に分かれてレースをします。倶知安町の選手はもちろん、京極町・喜茂別町・赤井川村などの近隣町村や、名寄市・士別市など

からも多くの選手が参加してくれました。

この大会には、毎年陸上自衛隊冬季戦技教育隊（冬戦教）の皆さまも参加してくれています。この日は倶知安町出身の古谷沙理選手も参加し、一般女子の部で見事優勝しました。

夏の気温によって、コースの雪は刻一刻と融けていきます。冬とは違う夏のコースに苦戦している様子も見られましたが、夏の雪

を皆さん楽しんでいました。

今年の大会では、日本バイアスロン連盟や北海道バイアスロン連盟、冬戦教の方にご協力いただき、小学生

～中学生を対象にバイアスロン体験を実施しました。射撃を初めて体験する子も多くいましたが、北海道バイアスロン連盟や冬戦教の方が講師をしてくださり、徐々に的に当るようになっていきました。的に当たったときには、講師の方とハイタッチをする場面も見られました。

サマークロスカントリー大会も、バイアスロン体験も、豪雪を誇り、自衛隊駐屯地がある倶知安町ならではのイベントです。今年で6回目を迎えるこのイベント。来年も、冷たい雪の上で繰り広げられる熱いレースを期待しましょう。



△一般女子の部で優勝した古谷沙理選手（右）

上手な生ごみの出し方

- ①生ごみは十分に水分を切り、町指定の生ごみ袋（専用袋）に入れてください。
 - ・水分に弱いため、生ごみを出す日に入れると良いです。
 - ②専用袋に入れた生ごみをバケツ等の容器に入れ、ごみステーションまで運び、生ごみ収集バケツに移し替えてください。
 - ・運ぶ途中で汁が漏れたり、袋が破れても生ごみが散らかりません。
- ※生ごみを運ぶために使用したビニール袋は収集バケツに入れしないでください。



★皆さんの声★

6月24日（火） 電話・女性

- ・ザルでよく水気を切ります。
- （周りの方もよくやっていること）

6月25日（水） はがき

- ・生魚はお店で頭、内蔵などを取ってもらいます。
- ・自分で処理した時はすぐに冷凍します。
- ・野菜の皮などは畑の隅に置いて干します。
- ・生ごみの日に干した野菜と冷凍した生ごみを決められた袋に入れて出します。

ご意見ご感想などまだまだ募集しております。



●耳より情報●

◎臭いを抑えるには

- ・重曹を白くなるくらい振りかける。吸水効果もあり！
- ・アルコールスプレーも殺菌と消臭効果あり！！

◎冷蔵（凍）庫の中に生ごみを保管するの
が嫌な方は

- ・100円ショップなどで売っている発泡スチロール製のクーラーボックスに保冷剤を2個ぐらい下に入れて、その中に水切りした生ごみを専用袋に入れて収集日まで保管します（専用の保管場所になる）。

お試しあれ！

◆お問い合わせ◆

役場環境対策課 ☎ 56-8008
清掃センター ☎ 22-5355